

こんなはずでは

塾長 釜中 明

平成15年9月、私がシナリオを書き制作した映画「木霊」を読売新聞がリバイバル上映と講演会を開催してくれました。その当時に比べ、シックハウスやコンクリートストレス、ローンが終わる前に建て替えなければいけない粗悪な家など、住宅事情はさらに悪化している現状に大きな危機感を披瀝しました。

家を買ってから「こんな筈ではなかった」と後悔する人が余りにも多いのです。これが契機となり、NPO：後悔しない家造りネットワーク<いい家塾>が誕生したのです。

平成16年5月、設立記念シンポジウムを開催。翌6月10名の参加者を得て開塾致しました。今年3月には特別研修として四国土佐ツアーに60名が参加、梶原森林組合や土佐和紙、漆喰工場などを見学しました。現在第4期生39名が受講しています。有難いことに受講者は100名を超えました。

皆さんから「今までの常識が間違っていた」「目から鱗です」「いい家の輪郭が見えてきました」と多くの方が言って下さいます。卒業生から、土地及び建築を10名近くの方から依頼が参りました。皆さんが「こんな家が欲しい」と自信を持って言えるようになったのです。設立時の苦勞が吹っ飛び、新たな使命感が沸きあがってきます。

これも、サポーターやアドバイザーのご理解や支援があつての事と感謝です。しかし、周囲ではマンションの建設ラッシュや、粗悪な建売の建設に私達の非力に歯軋りをかんでいます。さて、今後の活動に夢が大きく膨らみ、使命感に燃えて取り組む所存でございます。11月8日を「いい家の日」と制定します。そして「いい家の条件」の設定。100年住宅で個人経済を豊かにする運動を提唱し活動してまいります。



今般、記念すべき「いい家」が創刊しました。山岸飛鳥編集長の下、後悔しない家造りのために紙面を通して一人も多くの方に真実をお伝えしてまいります。ご期待下さい。

「いい家塾」はヒューマン・ルネッサンス

都市計画プランナー・立命館大学教授 高田 昇

人は感性や創造力、そして健康と生きる力がいつもリフレッシュされ、高まっていくような物的・社会的環境に、日々身をおくことによって、自分の可能性を高めていけるものです。でも、どうでしょうか。その源であり、もっとも関係が強いはずの「家」というものに、あまりにも無頓着すぎるように思いませんか。

家づくりを学ぶ、というと何か特別な人のすることと見られるかもしれませんが、誰にとっても、人間らしさを取り戻すチャンスと言えるでしょう。私たちは、そのことを歴史のメッセージの中に見つけることができます。昔、年月をかけて家を造り、世代を通してその知恵を引き継いだ時代があります。自然素材と技術が融合する世界の民家の姿に、健康や環境、気候、風土、そして生活の発展のために、たゆみなき努力が重ねられてきた事実を再発見できます。

その発想を、未来志向で、組み立て直そう、とするのが家づくり塾のチャレンジです。家について知り、学び、教え合うことは、暮らしのあり方を見直すことでもあります。忘れていた大切なものを、引き出しから、一つひとつ取り出すことにつながるはず。人生の達人への道でもあると思います。それは、とても楽しい、夢のあることでもあります。きっと始められた人は、どうして、もっと早く気づかなかつたのだろう、とお考えのはずでしょう。

カラ松の森の小道を心地よい汗を感じながら散策すること数分。僕らの目指す建物は静かに、が、凛と存在している。ここは八ヶ岳山峰の麓、原村。日本でも数棟しか存在しない、ピュアウッドシステムの教会見学が今回の旅の大目的。温厚な牧師さん夫婦の招きに応じ、建物に踏み入れる。参加者のざわめきが消える。五感を刺激する木のやさしさと、強靭さ、生命力、したたかさ・・・僕らは初めて出会う空間の心地良さに包まれている・・・

3月の高知ツアーに引き続き、第二回目、家塾恒例の「修学旅行」に参加する。前回でもおなじみ「ジパング号コーヒー」を戴きながら、バスは一路信州へ。諏訪湖を見ながら、尖石遺跡に到着。信州とは云え、炎天下の縄文住居のヒヤリとした心地良さ。僕らの祖先は、石油や電気がなくても、自然の力のクーラーを手に入れていたのだ。厚さ30センチを超える萱の屋根＝外壁は、風雨を避けるだけでなく室内の調湿と共に断熱材としても十分な効果を発揮している。石油エネルギーにドブプリ漬かり、薄っぺらな合板小屋やコンクリート洞窟に住む僕らは退化しているのかもしれない・・・。

原村に到着。ペーター・マテー氏の主宰する「自然の住まい」で、新大阪「大ス樹」でもおなじみの「TEAM7家具」のレクチャー。そして、彼が今、もっとも力を注いでいるピュアウッドシステムの体感ツアー・・・正に「百聞は一見にしかず」・・・文頭の印象へと相成る訳であります。ピュアウッドシステムの詳しい説明は紙面の関係上、割愛しますが、縄文を超える「究極の木構造」とだけ記しておこう。ピュアウッドで出来た住宅に移動、隅々まで見学。気が付けば日もトブプリ暮れ、あわてて宿舎へ・・・ほんまもんの山の幸に舌づつみを打ち、後は温泉三昧と夜は更けてゆくのであります。マテーさん、牧師さん貴重な時間、有難うございました。

次の日は、木曾ヒノキの故郷「赤沢美林」へ。移動時間を利用し、セルロースファイバー「Z工法」山本代表が特別Q&Aコーナーを開催。鋭い質問が次々と出され、参加者にとっての貴重な機会となったようです。赤沢美林は森林浴の発祥の地でもあります。フィトンチッドを浴びての散策も良し、資料館で木の勉強するも良し、木曾川源流での水遊びも良し、ビールと五平餅に舌鼓を打つも良し・・・森林鉄道を楽しみ、日頃のストレスとは無縁なリラックスした休日となりました。



いちばん大切なこと

株式会社大ス樹 山本容子

昨年より始めました「いい家塾」で出来るだけ快適に暮らす知恵や情報や考え方を一緒に考える講座を担当させていただいています。記念すべき第一号に何を書かせて頂こうか悩んで締め切りギリギリになってしまいました！編集長ごめんなさい！私がこの講座で一貫してお伝えしていきたいことを書いてしましましょう。これを読むともう「いい家塾」で私の担当講座は聴かなくてもよくなりますが、せっかくなので顔を見に来てくださいね。

一番大切なことは、自分に自信を持って自分の直感を信じて頂きたいことです。テレビや人の意見は参考にして物事を自分の責任で自分の判断で決めてください。そしてなるべく自然に近いものを身近に置いて体や精神に自然を思い出させてください。コマーシャルズムでいろいろ便利で簡単に安く早いものが出回りますが これを大企業が利益優先でよくないものを売りつけているとみる見方もありますが、実はもう片方で私たちが心の底でそういうものを欲しいと願っていたから実現しているのも本当のところですよ。

私は講座で今まで経験したり体験して知っている状況や状態を情報として出来るだけ客観的にお伝えしていきます。なんか硬い表現ですが簡単に言うと、おばちゃんが主婦や子育ての経験からの話をさせていただきただけなんです・・・。

仕事はオーストリアのTEAM7（ティームセブン）という家具メーカーの商品を新大阪駅近くのショールーム大ス樹（だいすき）で展示販売をしています。環境先進国のオーストリアからは環境に関して多くのことを学びました。ホームページでもいろいろ情報発信していますのでどうぞご覧ください。 <http://www.daisuki.co.jp>

木のかおりただよ山村（森林浴を楽しみませんか？）

（株）山本博工務店 山本啓二



私の出身は三重県熊野市飛鳥町。小さな山村です。ほとんどの村人が林業関係で生計をたて、生き抜いてきた時代があり、その恩恵で今も山の仕事が引き継がれており、すばらしい木材が出荷されています。

私の祖父は木こり、父は桶屋職人、兄弟の中には大工職人、製材所に勤める人、木材を運搬する人等々、まるで「白アリ」のように木を食べる人種達です。山から切り出された丸太が「熊野原木市場」に並べられて、街から買い付けにこられた仲買人達によって競り落とされ、県外の町に出荷されて行きます。熱気あふれる

競り市をぜひ体験してもらいたいです。毎月5日と20日に開催されています。

熊野材の桧、杉材を使って建てさせてもらったお客様の中には、遠い田舎までも見学に行ってお下り、我が家で使用される木材をご自分でしっかりと確認、納得されて計画を進められた方もおられます。田舎へ向かう道中、車を止めてちょっとひと休み。すぐさま森林浴です。山中を歩きたくなり、こぼれ陽を受けながら、さわやか気分の散歩です。

「いい家塾」の皆さん方といっしょに体験できる日を、楽しみにしています。



土地のおはなし

（有）ミドウ通商 大谷康男

いい家を建てるコツ。

1. いい土地 2. いい設計 3. いい施工。以上で、間違いなし！！

◎土地探しを依頼する場合

1. 正規の業者に依頼。府県知事・大臣免許取得業者に委託する。

不動産取引に保証がつきます。トラブルの防止。責任が明確です。

2. 欲しい場所の絞込み。

漫然と依頼すると中々見つからない。〇〇市××町まで。理由も添えて。土地を持っている人の心理として、よほど困って急いでいないと業者に売却依頼しない。

表にでるのを嫌がります。絞り込んでおくと、専門的方法で物件の掘り起こしが可能。

3. 何を優先するか？これだけは譲れない点は、はっきり伝えてください。

・・・1. 坪数 2. 予算 3. 時期 4. 環境 5. 利便さ 6. 学区 7. 学校までの距離
その他いろいろ。

4. 情報化社会ですから、特に現在住んでおられる地域で探す時は、広告（新聞・電柱）とか、地区の役員にお願いする等身近な情報を自分で探す努力を。

・・・特定の業者に『専属専任契約』等しないで、幅広く情報を集める。いろんな業者に依頼する。

個人の土地を探すのは、困難が伴います。特にいい土地が見つかったと思ったときは、タイミングをずらさず結論を。土地を探している方はたくさんいらっしゃいます。ご幸運を祈ります。

（大阪府知事免許（1）第51245号）

最近暇になってきたので、家にとって一番シリアスな問題は何だろうなどと、コーヒーを啜りながらつらつらと考えてみた。間取り？ シックハウス？ 温湿度？ シロアリ？ いや待てよ、壊れてしまっちは元も子もないから、やっぱり地震に強いこと？

そう思ったとき、テレビ画面に映ったのは、廃墟と化したアラビアンナイトの街なみ。地震もカトリーナも怖いけれど、これにはかなわない。耐震も免震もお構いなしだ。もちろんシロアリの比じゃない。

そうは言っても、戦争は政治の話。政治には縁のない私にはどうしようもないのかなあ……。諦め気分が頭をもたげる。

いっそ、地下シェルターでも作っておく？ いやいや、そういう自分だけ助かろうという気持ちが、戦争を起こすのでは……。迷いは続く。

それならせめて、戦争の原因になるものを少しでも減らせないか？ 政治がどうなろうと戦争は嫌だと思える、そんな心を支える力に、住まいはなれないか？……

うん、少しだけリアリティ。

木という材料は、命の痕跡をとどめている。他の命をもらって、私たちの命をつないでいることを、体感できる空間。それが木の家。

だから、一度自分で木を切り倒してみると良い。命をもらって我が家ができたことを、しっかりと体に記憶させて住み続けることができる。そういう家に住んでいれば、いたずらに命を奪おうという気持ちにはならない。きつと。



編集後記

どうにかこうにか、創刊号ができました。いい家塾を卒業された方々に、なにも情報をお届けできないことが、気になっていましたので、少しだけ安心しました。お祝いのメッセージを寄稿して下さった顧問の高田先生、ねじり鉢巻ぎで原稿を書いて下さったサポーターの皆さん、お疲れさまでした。もっとも、中身はこれから充実させていかねば、と思っています。塾生、卒業生の方からも、ぜひ投稿をお待ちしています。

また、取りあげてほしいテーマのリクエストも歓迎です。メール、FAX、ハガキ、なんでも結構です。ぜひとも、声を届けてください。